

記述項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						
Q1 室内環境						
1 音環境						
1.1 騒音						
1 暗騒音レベル		0.40				3.1
2 設備騒音対策		-				3.0
1.2 遮音						
1 開口部遮音性能		0.40				3.0
2 界壁遮音性能		0.92				0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		0.08				0.30
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-				0.20
1.3 吸音						
2 温熱環境						
2.1 室温制御						
1 室温設定		0.50				0.50
2 飽和蒸気・追従制御性		0.59				0.62
3 外皮性能		-				-
4 ゾーン別制御性		0.36				0.38
5 湿度・温度制御		0.05				-
6 暖房制御		-				-
7 時間外空調に対する配慮		-				-
8 監視システム		-				-
2.2 湿度制御						
2.3 空調方式						
3 光・視環境						
3.1 昼光利用						
1 昼光率		0.25				3.1
2 方位別開口		3.5				0.30
3 昼光利用設備		0.30				-
3.2 グレア対策						
1 照明器具のグレア		3.0				0.51
2 昼光制御		-				-
3.3 照度						
1 照度		0.60				0.26
2 照度均齊度		-				-
3.4 照明制御						
4 空気質環境						
4.1 発生源対策						
1 化学汚染物質		0.59				0.63
2 アスベスト対策		1.00				1.00
3 ダニ・カビ等		-				-
4 レジオネラ対策		-				-
4.2 換気						
1 換気量		0.39				0.38
2 自然換気性能		0.50				0.33
3 取り入れ外気への配慮		3.0				0.33
4 給気計画		0.50				0.33
4.3 運用管理						
1 CO ₂ の監視		0.03				-
2 喫煙の制御		1.00				-

Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.4
1 機能性		-	4.4	0.40	3.4	1.00
1.1 機能性・使いやすさ		-	4.0	0.60	3.1	0.60
1 広さ・収納性		-	3.0	-	4.0	0.13
2 高度情報通信設備対応		-	3.0	-	3.0	0.87
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の基準を最低限満たしている	4.0	1.00	3.0	-
1.2 心理性・快適性		-	5.0	0.40	4.0	0.40
1 広さ感・景観		-	3.0	-	3.0	0.50
2 リフレッシュスペース		-	3.0	-	3.0	-
3 内装計画		明確なコンセプトのもとに事前検証を行っている	5.0	1.00	5.0	0.50
1.3 維持管理		-	3.0	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-	3.0	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	3.0	-	-	-
2 耐用性・信頼性		-	3.0	0.31	-	3.0
2.1 耐震・免震		-	3.0	0.48	-	-
1 耐震性		-	3.0	0.80	-	-
2 免震・制振性能		-	3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		-	3.0	0.33	-	-
1 軸体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-	3.0	0.23	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.15	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-
2.3 適切な更新		-	-	-	-	-
2.4 信頼性		-	3.2	0.19	-	-
1 空調・換気設備		-	3.0	0.20	-	-
2 給排水・衛生設備		-	3.0	0.20	-	-
3 電気設備		-	3.0	0.20	-	-
4 機械・配管支持方法		光ケーブル、携帯通信設置、浸水の恐がない	3.0	0.20	-	-
5 通信・情報設備		-	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性		-	3.0	0.29	3.6	1.00
3.1 空間のゆとり		-	4.2	0.04	4.2	0.50
1 階高のゆとり	1階階高4.2m、2~5階階高3.2m	-	5.0	0.60	5.0	0.60
2 空間の形状・自由さ		-	3.0	0.40	3.0	0.40
3.2 荷重のゆとり		-	3.0	0.04	3.0	0.50
3.3 設備の更新性		-	3.0	0.92	-	-
1 空調配管の更新性		-	3.0	0.17	-	-
2 給排水管の更新性		-	3.0	0.17	-	-
3 電気配線の更新性		-	3.0	0.11	-	-
4 通信配線の更新性		-	3.0	0.11	-	-
5 設備機器の更新性		-	3.0	0.22	-	-
6 パックアップスペース		-	3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出		-	3.0	0.30	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		-	3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		-	3.5	0.30	-	3.5
3.1 地域性への配慮・快適性の向上		-	3.0	0.50	-	3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上	敷地内に緑化部分を多く設けている	-	4.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	2.8
LR1 エネルギー		-	-	0.40	-	2.7
1 建物の熱負荷抑制		-	3.0	0.39	-	3.0
2 自然エネルギー利用		-	3.5	0.20	-	3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用	住戸のほぼ全体が外皮に2方向面する	-	3.1	0.50	-	-
2.2 自然エネルギーの変換利用	太陽光発電設備設置	-	4.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		-	2.0	0.39	-	2.0
4 効率的運用		-	3.0	0.03	-	3.0
4.1 モニタリング		-	3.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制		-	3.0	0.50	-	-

LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護		3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水		3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.96	-	-	
2 雜排水再利システム導入の有無		3.0	0.04	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.8	0.63	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	仕上げ材が用意に分別可能	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.8	0.22	-	-	3.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用	化学物質を排出しない材料使用	5.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-	
1 消火剤	ハロン消火剤は不使用	4.0	0.33	-	-	
2 断熱材		3.0	0.33	-	-	
3 冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮		2.9	0.33	-	-	2.9
2 地域環境への配慮		2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	駐車場、駐輪場設置	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	0.33	-	-	
2 振動		3.0	0.33	-	-	
3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	